

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090700099		
法人名	特定非営利活動法人 グループホームやまびこ		
事業所名	グループホーム いなほ園		
所在地	福岡県北九州市八幡西区町上津役東2丁目21-44	TEL	093-612-1500
自己評価作成日	平成22年6月26日	評価結果確定日	平成 22年 7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成22年 7月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様及びご家族様の希望を常に聞き、希望に添える様職員全員で取り組んでいる。利用者様に地域の一員と心から感じていただける様に地域行事への参加、地域ボランティア宅への訪問などを積極的に行っている。又、事業所の行事等に積極的に広報し地域ボランティアを始め、地域住民の参加を呼び掛け地域との繋がりを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡西区郊外の住宅地の一角に家庭的で落ち着いた雰囲気ของกลุ่มホームいなほ園がある。ゆったりとした造りのリビングは、利用者と職員の楽しい会話で盛り上がり、家族の一員として、温かく、安らげる家庭環境の中で、穏やかな自立支援を目指し、身体機能の維持向上を生活リハビリを通して実践し、利用者や家族からの信頼は厚い。また、地域行事には利用者と職員が積極的に参加し、ボランティアによる散歩やおやつ作り等、地域との交流は活発である。利用者の健康管理は看護師を中心に職員全員による、きめ細かな見守りと、提携医の定期的往診で、万全の態勢を構築している。今後は、地域介護相談事業など、地域住民の介護に対する心配事や要望を受け、地域から信頼されるグループホームいなほ園として、努力することを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝10時の朝の挨拶、体操の時に職員及び入居者と共と一緒に読んで、全員が周知出来る様に取り組んでいる。	稲穂のように奢ることなく頭を垂れ、ホームに集う人々が誇りを持って過ごし、人生が実り多いものになるよう。地域に対してはホームが社会資源になるようにと、ホームの目指す方向を明確にした理念である。「利用者はスタッフの鏡」、笑顔で接することで笑顔を引き出すことができるとの想いを全員が共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方が週に1、2度遊びに来てくださり、一緒におやつ作りをしたり、散歩に行ったりとより良い関係作りが出来ている。又、どんど焼きや地域・小学校の行事に参加し、事業所外での交流も行えている。	自治会に加入し地域の行事に積極的に参加すると共に、地域に向けて介護相談事業や自治会と共催でセミナーの開催、大学や高校の実習の受け入れ等、地域との交流を図っている。消防訓練などのホームの行事には地元の方の参加も多く、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、地域行事への参加や、事業所の行事に地域の方を巻き込む努力をしている。又、地域ボランティアの登録があり、不定期に施設に来所している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議に出席して、その月に行った行事やドライブでの入居者様の状況などをご家族の方に報告している。スタッフもご家族の方も意見を言い合い、利用者様にとってより良い環境作りを努めている	2ヶ月に一度、家族、利用者、地域包括支援センター職員、知見者(実習受け入れ先の大学職員等)をメンバーに開催している。地域の方が気軽に参加しやすいように市民センターで開催するなど、地域の理解と支援を得る為の取り組みをしている。家族の参加も多く、会議で出された意見を、ホーム運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自治体主催及び、他の研修の講師や実習受け入れ等により、行政と共にサービスの向上に取り組んでいる。	地域の介護相談事業や、行政等が実施する講演会への講師派遣など市と協働して地域の介護、福祉の推進役としての役割も果たしている。グループホーム協議会や地域包括支援センターを活用しての協力関係も築かれ、積極的な情報交換が行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング時に身体拘束について、話し合いを行っている。又、日々のケアの中で無意識に身体拘束をしていないか、確認し合っている。	玄関やベランダなどには鍵をかけていない。利用者の行動パターンの把握やさり気ない見守りで、利用者に心理的圧迫を与えることなく安全を確保している。ベッドの柵も手すりとして使用する時以外ははずして置くなど、細かい配慮をしている。また、ミーティングで、無意識の中で、日常的に身体拘束をしていないかを確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1度のミーティングにて虐待防止についての資料を読みあい、確認し合っている。又、日常の介護において虐待が無い話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を備え、職員及び御家族への周知を図っている。	職員は外部や法人内研修に参加し、制度についての知識を深めている。現在、制度を活用している利用者はいないが、制度に関する資料を備え、全員に説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	認知症対応型生活介護の入居前にきちんと分かり易く説明し、契約を結ぶようにしている。又、重要事項も、変更時にも同様に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご意見箱を設置し、意見・不満・苦情を記入する事ができる様にしている。又、運営推進会議に入居者様に参加する機会を与え、意見を聞き反映できる様に取り組んでいる。	意見カードを添えた意見箱を玄関に設置し、家族への書類送付時には苦情票を同封、また、家族全員が参加する母の会での交流の場を設け、利用者一人ひとりと、じっくり話を聴くなど、利用者や家族が意見を表せる環境を整えている。出された意見はミーティングで検討し、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表面談を設け、理事長と一対一でゆっくりと話す時間を作っている。その中で、理事長に直接意見や提案を述べ、伝えている。又、月に1度のミーティングの際も、意見・要望がある際は、話し合う時間を作り、日々の業務に反映させている。	スタッフと理事長との1対1の面談や、職員の慰労と意見交換を兼ねた研修旅行と、職員の意見を運営に反映させる為の取り組みをしている。待遇や人事等の大事な決定事項も現場の職員の意向を尊重し、意欲を引き出すような配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場での声を大事にし、職員が主体性を持って働けるような環境を整備している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様にしている。又、職員の昇給昇進の機会を増やしたり、外部研修への参加及び、資格取得の支援をしている。	職員の採用にあたっては、性別や年齢などの制限は設けていない。定年も設けず働く意欲のある職員は、継続できる体制である。休憩室、職員用ロッカーも備えられ、休憩時間も確保されている。職員旅行や誕生日休暇等、ホーム独自の制度も設けられ、活き活きと働ける環境が整えられている。働きながら資格取得した職員も多く、離職者も少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修において、「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを行い、人権尊重についても考える場を持っている。	利用者の人権を損ねることのないよう、管理者は、職員に対して人権教育を積極的に実施している。セミナーや運営推進会議でも議題とし、外部に向けて積極的に働きかけている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修の時間を設けたり、講演会等に参加し職員の知識や意欲の向上を図っている。管理者研修等にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会等に入会し、他事業所との交流を行っている。又、当法人内での研修会などで交流を行い、初心に学ぶこと等を再確認している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が話し易い状況でニーズを聞ける様な雰囲気作りに努め、ゆっくりと話しを聞き、傾聴している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話相談にて、スタッフがご家族の要望や悩みを傾聴し、受容・助言を行っている。又、いつでも来園しやすい雰囲気作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、本人とご家族のお話をじっくり聞き、その時必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め助言を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に何かを行う事で、喜びや悲しみ、楽しみを共有し、同じ目線から本人と関わりが持てるようにしている。又、ゆっくり話す時間を作ることでより利用者本人を知り、信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との連携は、常に密に行い、本人にとって今何が必要か一緒に検討し互いの情報を共有していく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個室の個人空間は、自宅から持って来た家具等馴染みのある物を使用して頂き、安心して生活を送ってもらえる様努めている。又、行事等を通し、ご家族や知人を招待し関係が途切れないよう支援している。	同一法人のデイサービスからの入居も多く、デイサービスとの交流も積極的に図っている。ボランティア宅への弁当持参の訪問や希望する利用者には、法事や冠婚葬祭の支援など、利用者が大切にしてきた関係が入居により途切れないように、きめ細かい支援をしている。日常的に馴染みの方々がホームを訪れ会話を楽しんでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない方同士にはなるべく距離が取れかつ孤独にならない様スタッフが話し相手になるなどしている。入居者様同士会話が成り立たない時はスタッフが間に入りスムーズに会話が出来る様にしている。又気の合う方同士楽しく会話が出来るよう席を隣同士にしたりと雰囲気作りにも心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催し物、行事などのお知らせを行い、いつでも気軽に来園していただけるような雰囲気作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とじっくり話せる機会を作り、信頼関係を築く中で、希望・意向を聞きだし実行出来るようにしている。困難な場合には、ご家族に本人の生活歴等を尋ね、何を求めているか話し合う機会をスタッフ同士で作っている。	担当者が居室を訪ね、じっくり話を聴く機会を設けたり、スタッフ全員が把握した情報を個人票に記載し、情報交換をして、思いや意向に添えるようきめ細かく把握している。意向が困難な利用者は、家族の協力を得ている。居間には衝立を準備し、気にすることなく意向を伝えることが出来るように必要に応じ活用している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味・特技・生活歴等をご家族や本人から聞きだし、シートに残している。又、入居者との会話の中で聞きだした事も、その都度必要であれば記録に残すようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが一緒に一日を過ごす中で、その方の過ごし方を知り、又、残存能力を把握する事で、より良い支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず、一番近くに居るスタッフがアセスメントを行い、課題を見出している。又、本人やご家族のニーズをしっかりと把握した上で他関連施設等と連携し介護計画を作成している。	介護計画は職員全員で作成している。日頃の関わりの中で気づいた事を個人票に記録し、アセスメントし、話し合いをして計画に反映させている。家族からの意見も大切に利用者主体の計画を作成している。定期的に見直しをし、利用者の状態に変化が見られたときは、その都度現状に即した計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活に変化があった場合は、個人票に記録し、スタッフ全員が把握できるようにし、又、病院受診等の際に、すぐに報告できる様になっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、御家族からの話を聞き、状況に応じ出来るだけの支援を行えるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、地域ボランティアの方が事業所に訪問してくださり、会話等をしていただいている。又、消防訓練にも地域住民が参加していただいた。行政関係としては、救命救急隊による救命救急講習や消防署立会の消防訓練を開催している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三浦整形外科・外科クリニックのドクター、黒田皮膚科、有松歯科医院のドクターと往診できる対策を整えていると共に、必要であれば他科にいつでも受診出来るようにしている。	2週間に一度の往診や、スタッフである看護師の健康管理、24時間対応可能な医療機関の確保などに適切な医療、看護が受けられる環境にある。利用者が希望する、かかりつけ医での受診も家族の協力を得て支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師を配置し、入居者の体調などで変化があった場合、いつでも気軽に相談する事ができる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、御家族、病院側との情報交換に努め、本人が不安なく安心して過せる様にしている。又、早期の退院に向けて話し合い、相談を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、必要と感じた際、出来るだけ早めにご家族と話し合いを行い、事業所内での対応も十分に説明した上で承諾を頂いている。又、その際の医師との連携についても密着に検討し、ご家族と全職員が把握できるようにターミナルケアプランを作成し、それに基づき迅速な対応を行う体制となっている。	重度化や終末期の指針を定め、早い段階から家族に説明し、承諾を得ている。重度化した場合はターミナルケアプランを作成し、迅速な対応がとれるようにしている。利用者の状態や家族の強い要望でホームで看取りをすることもあるが、万全な医療、看護体制で臨み、スタッフに過重な負担がかからないように管理者が配慮している。家族の宿泊や食事の提供、送迎などの心配りもしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法の研修を行い、全職員が対処法を把握している。又、日常的に管理者や医師に尋ねる等して、いざという時の対応に備えている。又、救命救急隊による職員への救命救急講習を開き、勉強できる機会を与えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	年に2度消防訓練を実施している。必ず地域の方に声を掛け、参加していただいている。避難経路、避難場所は、全職員が把握し、落ち着いた対応ができる様にしている。	年に2回夜間を想定した避難訓練を実施している。訓練時には地域の方の参加も多く、交通整理や避難経路の確保等役割分担も明確になっている。玄関にはスロープは設けていないが、同一法人内の男性職員が車椅子利用者は介助するなどの取り決めもなされている。非常災害時に備えた備蓄はしていない。	近くに同一法人の事業所があり、災害時にはお互いに助け合える環境にあるが、想定外の事態にも対応出来るよう、食料や飲料水の備蓄や、保温や利用者の救出にも活用できる毛布などの準備が望まれる。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度には十分に配慮し、常に人生の先輩、目上の方という気持ちを忘れず接している。	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう活動宣言にも掲げ、利用者の人格を尊重した働きかけをしている。事業所便りに、写真やエピソードを載せる際には事前に了解を得、ボランティアの方には事前に個人情報について説明し、書類に署名をもらうなど、個人情報の保護に関しても細心の注意をはらっている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	例えば、入浴日には一緒に衣類を選び、好きな洋服を着て頂いている。自己表現が困難な方は、こちらから働きかけ、意思を伝えやすい雰囲気、言葉掛けを行っている。	
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースに合わせ、自由に過ごして頂ける様に支援している。又、何かしたいと希望があった場合は、出来るだけ取り入れ、満足した日々を送れる様に努めている。	
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「髪を染めたい」「パーマをかけたい」等要望があった場合は、ご家族に連絡し、ご家族と共に馴染みや行きつけの美容室に行っている。又、ご家族の来所が無理な場合は、事業所に来て頂いている散髪の方に頼んでいる。	
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・盛り付けは声かけし、利用者になるべく行って頂いている。後片付けも負担にならない程度に、各利用者様に行って頂く様にしている。自ら台所に立ち、自分の食器だけでも洗って下さる方もおられる。	食事の準備や片付けなど利用者も一緒にし、品数も多く彩りも配慮されている。職員は、会話を楽しみながらさり気なく支援している。誕生日の昼食はリクエストのメニューが出され、ケーキ作りも一緒にする等、食事が楽しいものとなるよう工夫されている。全員が浴衣を着てのソーメン流しやバーベキュー等季節ごとの催しも計画されている。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、提携している山鳩商店に依頼し、栄養バランスの良い献立を考えて頂いている。食事量は毎食チェックし記録している。又、1日3食とは別に、10時・15時にも水分摂取して頂ける様提供している。一人ひとりの咀嚼、嚥下状態に合わせた食事形態を提供し、細めに飲水して頂ける様に工夫している。	
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、必ず声かけし、口腔ケアを行っている。介助が必要な方は、歯ブラシやスポンジできれいにし、清潔を保っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力にて、排泄困難な方には、排泄パターンを考慮した上で、定期的にトイレ誘導の声掛けを行い失禁等で気分を害さないようにしている。又、衣類の上げ下げなど、自分で出来ることは出来るだけ自分でして頂ける様に声かけをしている。	トイレの位置が一目でわかるように目印を下げたり、自立度に応じてトイレが使い分けられるように設備を整えたり、人目に触れずにトイレ後の清拭が出来るように、温かいおしぼりを常時トイレ前に備えたりと、羞恥心や不安の除去に細かい配慮がなされている。職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じた個別の支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取の声かけを行ったり、食物繊維の多い食事を多く食事に取り入れてもらう等、食事の内容も工夫している。又、毎朝ラジオ体操やレクリエーションの時に、運動の時間を作っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬の間は週に2度お風呂を沸かしていたが、6月からは汗ばむ陽気となり、週に3回入浴の時間を設けている。入浴を楽しんで頂ける様に、入浴剤を使用したり、季節が感じられるように浴室の飾りつけを行う工夫をしている。	岩風呂風呂浴室の脱衣所には簡易トイレが設けられ、服を脱いだ後にもトイレにいける様にしている。季節に合わせて入浴回数を変える等、清潔の保持や、気持ち良く過ごせるような取り組みがなされている。入浴を拒む利用者には、強要せず話題を変えた後、さりげなく入浴に導くなどの対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を大事にしている。昼寝したい方は、自由に居室で休息が取れる様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全入居者様が使用している薬の目的・副作用・用法・用量について理解しており、処方箋は個人ファイルに綴じ、保管している。症状の変化がある時には、園の看護師及び、医療機関に報告し指示を仰ぐなどの対応をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全スタッフが生活歴を把握しており、個人差があるが、家事などが出来る方には声かけし、スタッフと一緒にして頂いている。気分転換が出来る様に、時折ドライブや散歩、ウッドデッキで食事するなど行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩したり、桜・チューリップ・藤・菖蒲等の季節毎の花を季節に合わせて楽しめる様に、満開の時期に合わせてドライブに出掛けている。又、「外の空気を吸いたい」と本人から希望があった時は、少しの距離でも散歩を行い満足して頂ける様にしている。	会話の中から外出の希望を把握した場合などは、その都度希望に添って個別に対応している。日常的な外出の他に、季節ごとのドライブや買い物等、外出の機会も多い。遠出の際は車椅子利用者も一緒に楽しめる様、大学の学生ボランティアとして参加するなど、協力者を得ながら利用者が、安全に、満足できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことの大切さは理解しているが、お金を持つことにより問題が発生する事を考慮し、事業所では個人がお金を所持する事はない。しかし、理由があり買い物に行く等、持っていたほうが良いと思われる時は、その時に応じて考えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「自宅に電話したい」と訴えがあった時は、すぐにその場で電話して頂ける様対応している。訴えが何度も続き、ご家族の負担になりそうな場合は、納得出来る声掛けを行い、いつでも連絡が取れるので大丈夫だと安心して頂ける様支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、不快な音や光が無い様に配慮しており、居間や玄関、食堂等には季節の花や、散歩で摘んできた野花を生け、居心地良く過せる様工夫している。	居間やウッドデッキなどのいたるところに季節の野の花がさりげなく飾られ、天井には木目調のクロスが用いられ、木の香りと優しい雰囲気漂っている。対面式の台所には食堂側にも流しを設けるなど、利用者が居心地よく過ごせる工夫がされている。全てをバリアフリーにせず、生活リハビリを考えると身体機能の維持向上を考えた造りである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、数ヶ所に別れ好きな所で過ごして頂ける様に、空間作りに取り組んでいる。仲の良い方、一人になりたい方、和気あいあいとレクリエーションに取り組める様に工夫し、居心地の良い場所と感じて頂ける様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が、以前使い親しまれていたタンスや鏡台等を居室に置き、自分らしい生活が出来る様に努めている。又、壁には入居者様の写真・ご家族の写真等を貼り、心が安らぐようにしている。	居室は畳にベッドを置き、利用者が好みの生活スタイルで過ごすことが出来るようにしている。手作りの作品や写真などは、ベッドに休んだままでも見易い様に壁の位置や高さにも気を配っている。馴染みの家具や品が配置された居室は、家族や孫の面会時には部屋で遊べるよう、ソファを貸し出しする等家族にも優しい配慮がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	アセスメントをとり「できること」「わかること」を理解している。一人ひとりの出来ることを生かすために環境作りを行っている。		